

報告・資料

衣服着装に関する高齢女性の意識（衣服製作と試着）

Elderly Women's Consciousness of their Clothing (Dressmaking and Fitting)

小 山 京 子

緒 言

目前に迫る21世紀を前に高齢化のスピードが加速されている中で、前報（小山1998）は健康的な生活営んでいる高齢婦人の衣生活に関する意識や購買行動に関して面接調査を行い、その動向を考察した。

その上で本報は、高齢期にあり、活動している70歳代の健康な女性4名を、体型を考慮したモデルとして選び、身体計測、体型分類、体型特徴を把握した。

この結果に基づき、よりよい衣生活を送るために、それぞれに適合した衣服（外出着）を設計、製作し、着装評価を行い、快適な衣服についての検討を試みた。

研究方法

1. 津山市在住の70歳代の女性4名（S・71歳、N・73歳、M・76歳、F・77歳）に、1998年7月1日、前報同様の面接調査を行った。

2. 同日4名の身体計測を行い、JIS規格に基づく体型分類と、前報同様タイプ別分類を行うと共に、JISサイズとの比較も行った。

3. 1, 2の結果に基づき、各個人の好みに近づけるよう衣服設計、製作を行い、9月から10月までの2ヵ月間着装を依頼した。服種は、S・Nはツーピース、Mはワンピース、Fはブラウスとパンツである。

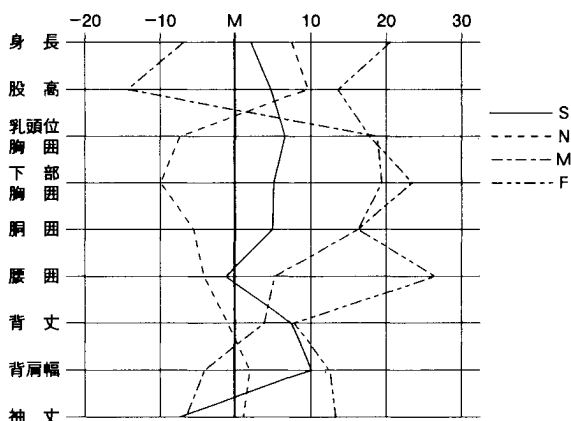
4. 11月に5段階の評定尺度法を用い、着装評価を行

った。

結果ならびに考察

1. 面接調査の結果は前報の報告とほぼ同様であったが、多少異なる点は、4名共ほとんど毎日のようによく外出をする点と、好みの色調が前報では70歳代前半・後半を問わずlight grayishであったが、3名が色調がはっきりし、深みのあるdeepを好んでいる。deep toneは、「濃い、深い、充実した」イメージがあり、家にいることが少なく行動的な面がこのような傾向をもたらしただけであろう。

2. モデル4名の身体計測の結果およびJIS平均値（70歳代・1997年改正）9項目は表1に示し、JIS平均値（70歳代）を基準にした関係偏差を図1に示す。



標準線：工技院70～79歳女子
(1992年～1993年)

図1 計測値の比較

Sは前・後胴高の差が40mmと他の3名と比べて大きく、そのため前・後WL～床までの差も46mmと前の方が大きくなっている。Mは前・後胴高の差と、

前・後WL～床の差が25mmと大きく腹部の突出がうかがえる。また、4名の内3名が腰囲より腹囲の値が大きくなっている。肩傾斜角は若年女性が左右ともほぼ

20°（小山1995）であるのに対して、4名とも左の値が大きく、特にSの左が28.0°と大きい。しかし、Sは概ね70歳代の標準体型である。Nは、身長はやや高いものの胸囲、胴囲などやや細い傾向にある。Mは身長はやや低い、胸囲、胴囲はかなり大きい。Fは身長、胸囲、胴囲、袖丈がかなり大きく、9項目すべてが正に属している（図1）。

JISの体型区分によれば、Sは15YP、Nは7ABR、Mは21YPP、Fは19BRと標準体型の9ARに比べて大変ばらつきがみられる。

前報同様の写真撮影による体型観察は、S、N、FはAタイプで、MはCタイプである。しかしSは、計測値の前丈・後丈と、背幅・胸幅の値がMに近い値を示し、Cタイプに移行しつつあることがうかがえる。

胸部・胴部・腰部の横矢示数とローレル示数を表2に示す。

胸部の横矢示数は4名に大きなばらつきがみられる。Mは102.1と横径より矢状径の値が大きく、丸みの強い体型であることを示しており、背骨の湾曲がうかがえる。また、Sも93.3とかなり矢状径の値が横径に近づいており、丸みの強い体型である。Nは73.5と矢状径の値がかなり小さく扁平である。胴部の横矢示数はNが少し小さいものの、4名とも殆ど同様の示数値を示している。腰部の横矢示数はNが71.1と胸部の示数より小さく、矢状径の値が小さい。Fは胴部とほぼ同様の

表1 身体計測値

No.	項目	S	N	M	F	JIS(SD)
1	身長 (mm)	1472	1502	1425	1577	1461(55)
2	右乳頭高	1032	1070	944	1055	
3	後胴高	870	918	869	975	
4	前胴高	910	934	886	989	
5	股高	657	679	584	690	641(39)
6	右上前腸骨棘高	780	812	623	895	
7	頸付根囲	419	368	403	427	
8	上部胸囲	895	770	912	932	
9	乳頭位胸囲	921	808	1022	1015	869(82)
10	下部胸囲	804	700	904	925	769(70)
11	胴囲	798	708	890	890	755(87)
12	腹囲	926	918	965	1076	
13	腰囲	912	898	952	1083	921(62)
14	右大腿最大囲	522	510	530	590	
15	右大腿最大囲	353	311	364	368	
16	股上前後長	725	683	705	825	
17	右腕付根囲	405	344	442	447	
18	右上腕最大囲	282	265	296	316	
19	右手首囲	160	152	165	186	
20	背丈	386	366	378	387	368(26)
21	総丈	1290	1295	1245	1381	
22	乳下がり	252	250	300	332	
23	前丈	373	374	345	397	
24	後丈	455	400	435	442	
25	右肩幅	102	115	111	109	
26	背肩幅	395	376	362	401	372(23)
27	背幅	360	298	355	315	
28	胸幅	302	317	301	348	
29	前WL～床	917	950	898	998	
30	後WL～床	871	920	856	984	
31	ゆき	696	712	683	750	
32	袖丈	475	496	478	527	495(24)
33	胸部横径	284	264	290	318	
34	胴部横径	272	235	283	297	
35	腰部横径	317	329	344	362	
36	胸部矢状径	265	194	296	269	
37	胴部矢状径	233	192	255	264	
38	腰部矢状径	256	234	269	323	
39	背部皮下脂肪厚	19.0	17.0	22.0	34.0	
40	上腕部皮下脂肪厚	21.0	18.5	31.5	17.0	
41	肩傾斜角(右) (°)	18.5	18.0	24.0	21.0	
	肩傾斜角(左)	28.0	25.0	25.0	23.0	
42	体重 (kg)	52.5	46.0	58.0	69.0	

表2 示数値

No	項目	S	N	M	F
1	胸部横矢示数	93.3	73.5	102.1	84.6
2	胴部横矢示数	85.7	81.7	90.1	88.9
3	腰部横矢示数	80.8	71.1	78.2	89.2
4	Rohrer示数	164.6	135.8	200.4	175.9

示数値を示している。横矢示数の全国資料は少なく、小山等（小山1995）による報告と比較すると、若年女性性は胸部、腰部、胴部の順に扁平になっている。しかし、高齢女性の4名の内、3名が2番目に扁平な部分は胴部で、1番扁平な部分は腰部となっており、年齢とともに背面と胴部が丸みを帯びてきている。

ローレル示数はNのみが中等型で、他の3名は甚肥満型である。特にMは身長も低く、示数が200となっている。

身体計測の結果から特徴として、Sは70歳代の標準体型に近いものの、少し背骨の湾曲が見られ、Nはやや細型であり、胸部、腰部は扁平である。Mは身長が低く甚肥満型の体型で、特に胸囲、胴囲の値が大きく、背骨の湾曲が見られ、Fは身長が高く、体幹部の周径も大きい。その中でも特に、腰囲の値が大きい、などがあげられる。

3. 衣生活に関する面接調査と、身体計測による体型特徴を考慮し、また、前報の調査ではブラウスとパンツがよく着用されていたが、外出着としても着用できることを考え、S、Nはツーピース、Mはワンピース、Fはブラウスとパンツの衣服設計、製作を行った。

設計、製作の要点

①モデルS

Sは和服好きで、赤紫色を好んでいる。ブラウスには赤紫色で和服風に縮緬素材を用い、背面に少し湾曲が見られるため、後ろ中心線にゆるみを入れた。ネックラインは少しハイネックでVネックラインの、ドルマンスリーブのカシユクールとした（日本放送協会編1994）。素材はポリエステル100%である。スカートはロング丈のセミタイトで巻きスカートとし、見返しには和服の八掛け風にブラウスの共布を使用した。ウエ

ストは前脇から後ろにかけて締めつけ感の少ないゴムを使用した（文化出版局編1998）。素材はウール100%のギャバジンを用い、裏布はキュプラ100%である。

②モデルN

Nは落ち着いた鷺色を好み、胸部の扁平な体型をカバーするために、ブラウスはVネックラインで、右前身頃に4本のドレープを用い、やわらかい感じと立体感を出した。袖はセットインスリーブで、袖口にタックを取りくるみ釦を付けた。スカートはセミロング丈のセミフレアーで、ウエストは高齢女性が最も好んでいるとされる（佐藤1995）両脇にゴムを使用した。明きは後ろ明きである（茂木泉編1997）。素材はポリエステル100%の縮緬で、裏布はキュプラ100%である。

③モデルM

Mは日常生活はパンツを着用しているが、丸みの強い体型と、背面の湾曲のカバー、少しのおしゃれを考え、前後にヨークのあるスタンドカラーのワンピースとした。色相の好みはグレイで、同じ無彩色の黒とともに使用されている柄を選び、ヨークの切り替えで後ろ身頃丈の不足を補うとともに、身頃にタックを取り適度なゆとりを持たせた。前身頃は襟ぐり線を繰り下げ窮屈感を除き、明きは腰丈までの短冊明きにした（小沢1994）。表布はレーヨン80%とポリエステル20%のニット素材を用い、裏布はキュプラ90%とナイロン10%のトリコットである。

④モデルF

Fはブラウスに好みの紫色を用い、大きめの下半身をカバーするためにパンツは紺色を使用した。ブラウスはスタンドカラーの7分袖のオーバーブラウスで、前明きをチャイナ風にした（日本放送協会編1997-4）。パンツは脇縫い目にポケットを付け、ウエストは総ゴム仕立てである（小杉1997）。ブラウスの素材はポリエステル100%であり、パンツは同素材のニットである。

製図

衣服設計に基づいた製図と、着装した前面、側面の写真を図2-1から図2-5に示す。

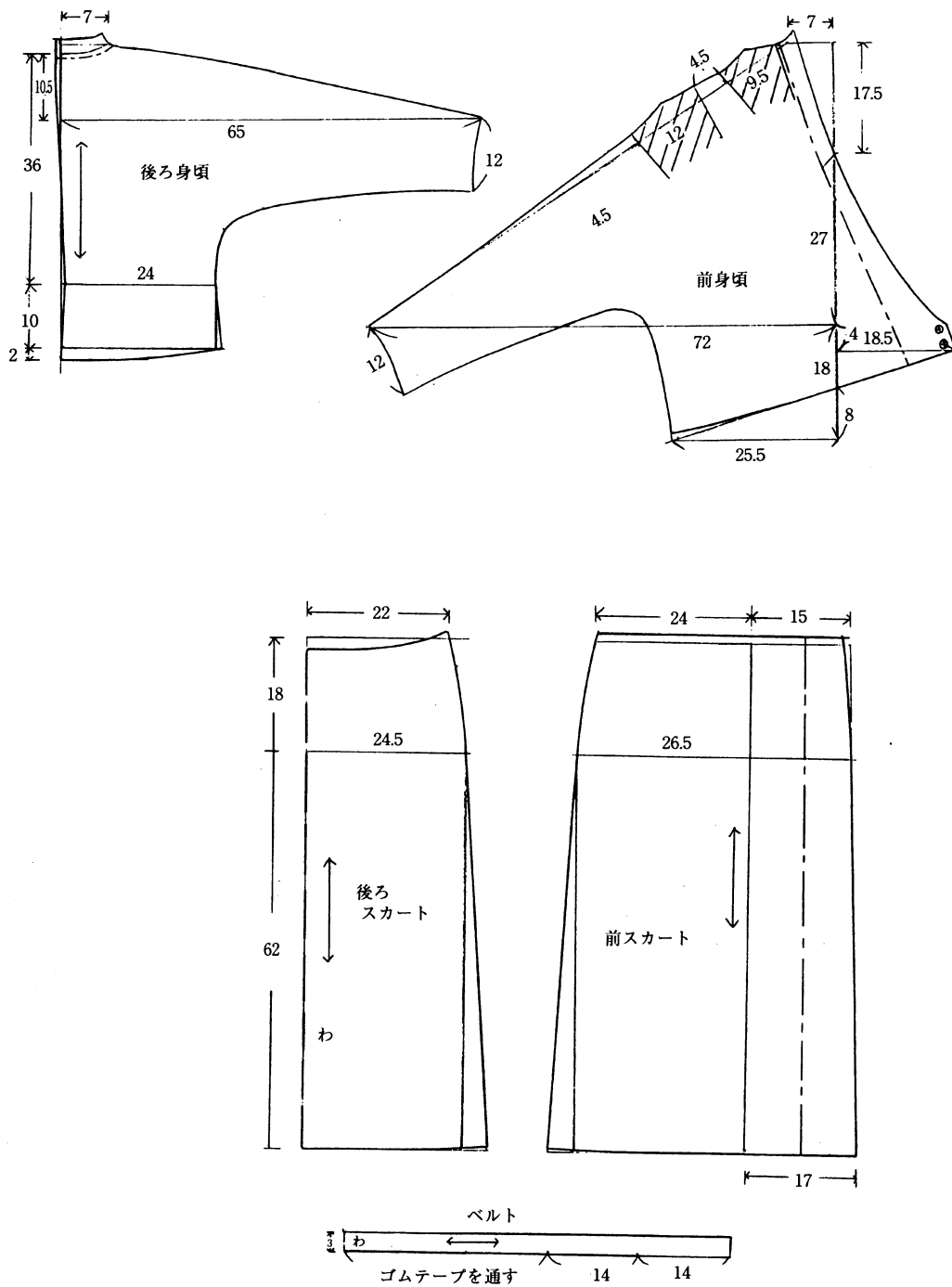


図 2-1 (モデル S)

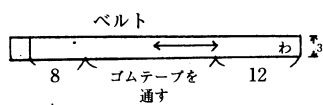
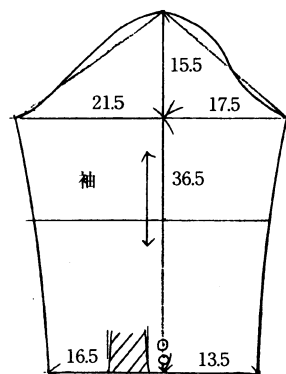
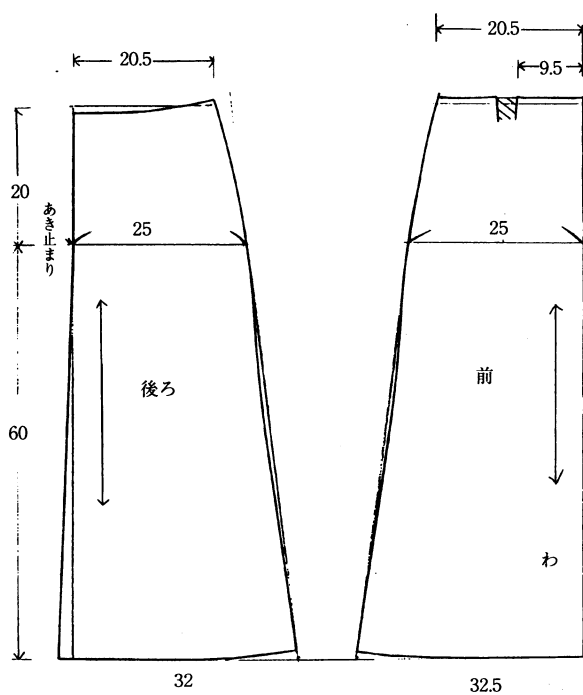
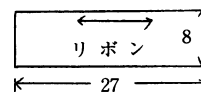
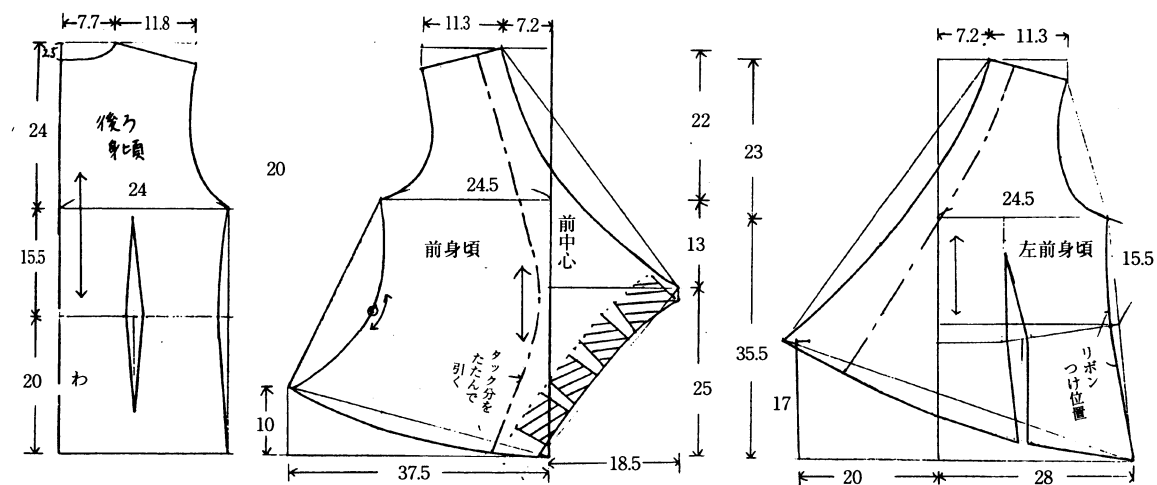


図2-2 (モデルN)

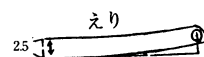
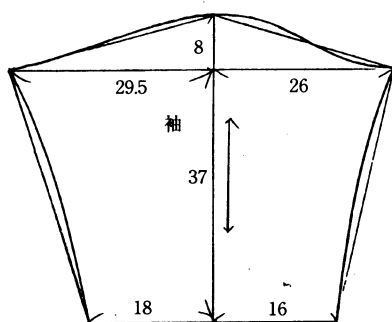
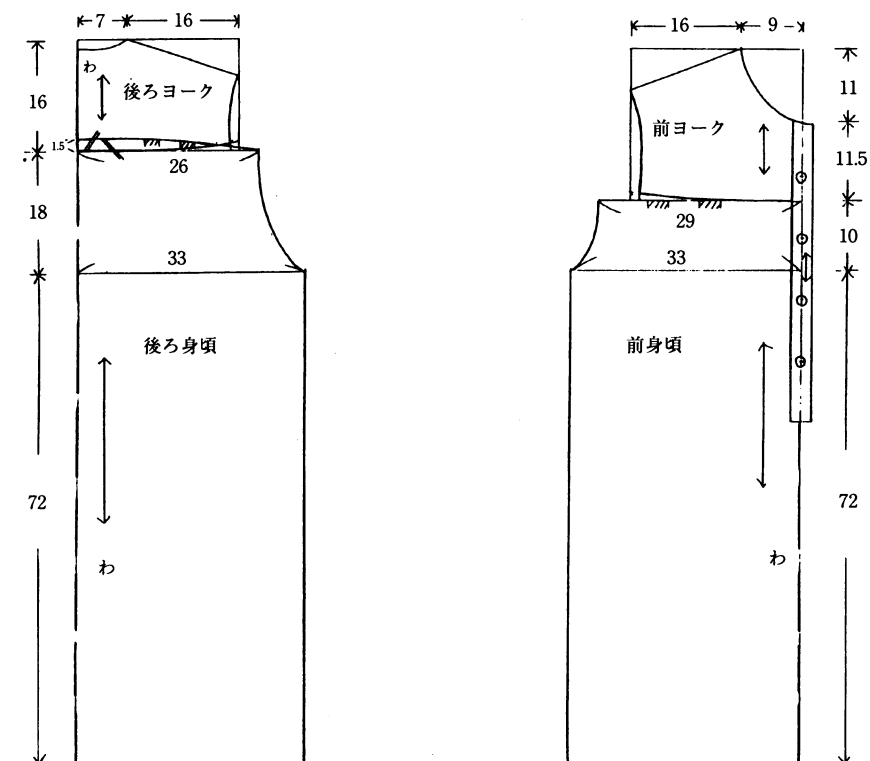


図 2 - 3 (モデルM)

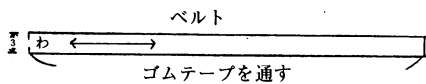
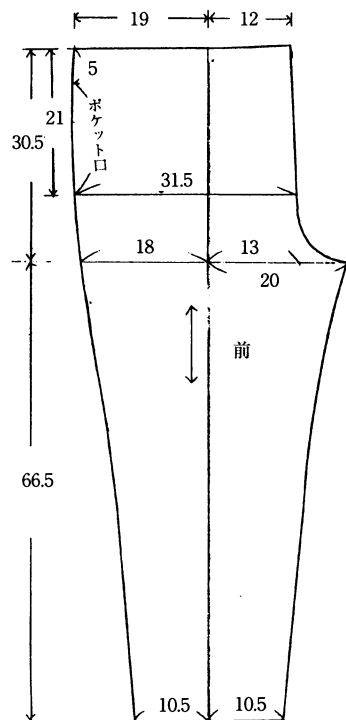
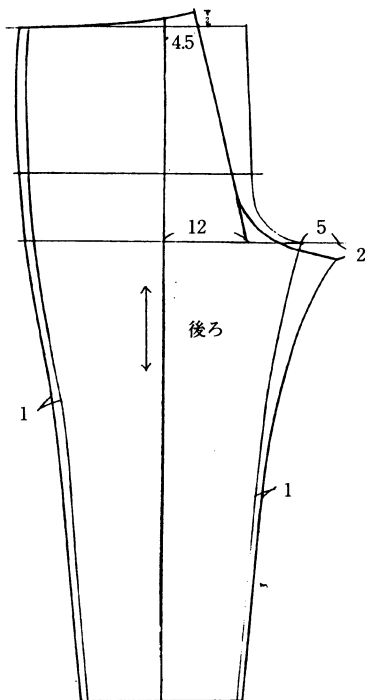
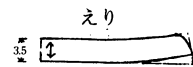
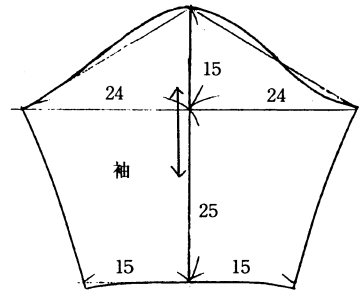
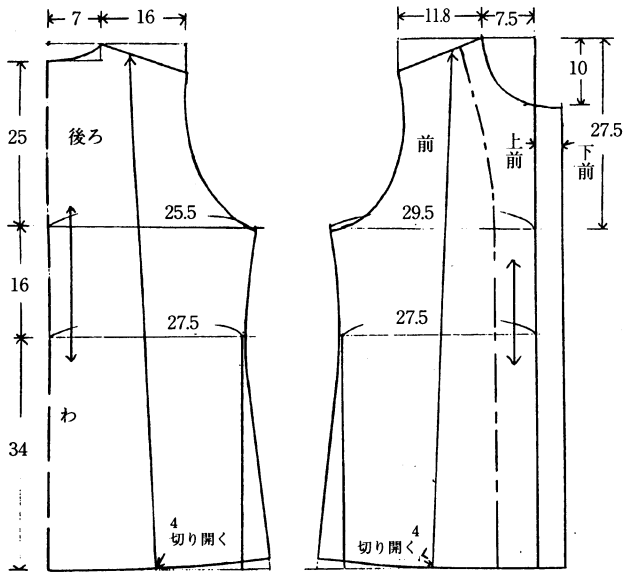
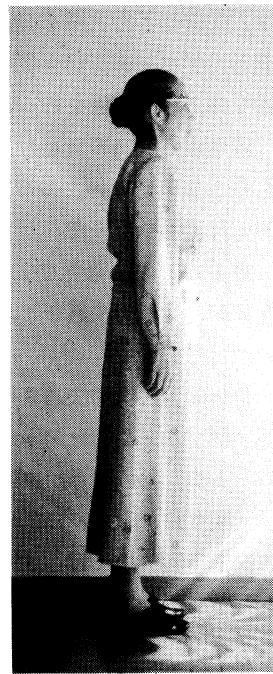


図 2-4 (モデル F)



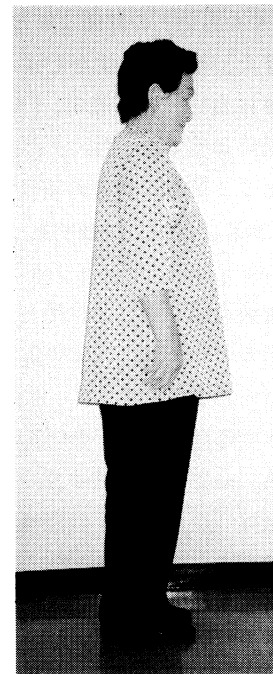
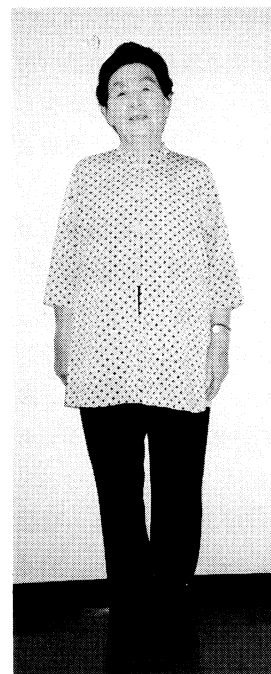
(モデルS)



(モデルN)



(モデルM)



(モデルF)

図2-5

4. ①製作した衣服を4名のモデルに2カ月間着装を依頼し、デパート、会合等への外出で、2～5回の着装報告を得、着装評価を行った。

評価項目は24項目とし、非常に良い、やや良い、どちらともいえない、やや悪い、非常に悪いの5段階の評定尺度法を用いた。

着ることの快適さを、人間・衣服・環境の面から、身体的・生理的快適さと、社会的・心理的快適さに分けた(丹羽1997)。

身体的・生理的快適さについては、胸囲・胴囲・腰囲・袖ぐり・股部分のゆとり、パンツ・袖・上着・スカート丈、動き易さ、皮膚刺激、汚れ付着、材質(繊維・織り方・厚さ)の項目を設定した。社会的・心理的快適さについては、デザイン(型・色・柄)、ファッション性、季節適応感、気分転換(T・P・O)、着装希望、全体の満足感の項目を設定した。

着装評価は、身体的・生理的快適さの胸囲・胴囲など周径に対するゆとりは概ね「非常に良い」の評価で、「やや良い」の評価はゆとりがやや多いと考えている。また、袖丈、着丈など長さに対する項目でも概ね「非常に良い」の評価で、「やや良い」の評価は丈が少し長いようであった。また、動き易さ、風合い、皮膚に対する刺激、材質の項目では4名ともすべての項目で「非常に良い」評価であった。社会的・心理的快適さのデザイン、ファッション性、気分転換、季節適応感、着装希望の項目では殆どが「非常に良い」と評価し、Mがごく一部に「やや良い」と評価した。これはワンピース丈が長く、コートの下からスカートが見える事へのこだわりが「やや良い」の評価となったようである。全体の満足感はS、N、Fは「非序に良い」で、Mは「やや良い」の評価であった。4名ともに、物理的にゆったりと着られ、着心地が良く、楽しく、快適に着られ、満足しているとの評価を得、体型に適応した衣服であると考えられる。

② 田中等(田中1998)は、高齢者の着装行動は自己意識(自律への意欲)、精神的・身体的健康状態に相関があり、着装基準の構造は、(1)個人的服装嗜好、(2)流行、(3)機能性、(4)社会的服装規範の4因子である

としている。また、自己意識の高い人ほど普段着においては「流行」を重視し、外出着においては「社会的服装規範」を重視するとしている。上野(上野1998)も着装決定は自律への意欲(生活の主体性と社会参加)との関連があるとしている。

本研究モデル4名は、精神的・身体的に健康であり、過去に職業を持っており、現在、社会活動に参加している自己意識の高いグループである。田中等の着装基準の個人的服装嗜好や、機能性、社会的服装規範には、明確な考えを持っているが、今回取り上げた外出着について社会的服装規範を特に重視しているとの判定には至らなかった。

高齢者は体型のばらつきが大きく、今回のモデルとは違ったJIS規格をはずれる体型も多いと考えられる。高齢者を対象とした衣服はデザイン、サイズ、色、柄がさらに充実され、サイズ直しの合理化(的確・迅速)も必要と考えられる。また、個々の機関での試作研究が具体化し、市場に関連していくような組織作りも必要と考えられる。また、高齢者向きのファッションショーを多くの機関で開き、高齢者自らがモデルとなり、様々なデザインの衣服を着装したり、見学することにより、衣服に関心を持ち、自己意識の低下を防ぎ強化できる可能性は大きいと考えられる。

要 約

4名の高齢婦人に対して、衣生活に対する意識調査と身体計測を行い、4種類の衣服を設計、製作、試着、着装評価を行った結果、次のような結論が得られた。

- (1) 4名の高齢婦人の体型は、婦人の標準体型である9ARと比べるとばらつきがあり、JIS規格の枠をはずれたものが多い。
- (2) 今回製作した衣服は、身体と衣服の間に多すぎない適度のゆとりがあり、胴囲に圧迫感の少ないデザインで、ゆったりとして着心地が良く、楽しく、快適に着られ、体型に適応した衣服であると考えられる。
- (3) モデル4名は過去に職業を持っており、現在社会的活動に参加している自己意識の高いグループ

で、外出着の着装基準に個人的服装嗜好、機能性を特に重視していたが、社会的服装規範を特に重視しているとの判定には至らなかった。

- (4) 高齢者の多くはJIS規格をはずれる体型も多いと考えられ、今後高齢者を対象としたデザイン、サイズ、色、柄が充実した衣服の研究と開発が望まれる。体型に適應する衣服作りには、さらに多くの体型把握と試作研究が必要であり、これらを市場に提供することが必要と考える。
- (5) 市場提供の手段としては、高齢者向けのファッションショー、展示会等を開き、衣服への関心から自己意識を高めていくことも必要であると考えられる。今後、さらに試作研究を重ね、高齢婦人にとって快適な衣服を考えていきたい。

最後に本研究の調査、身体計測、衣服試着にご協力いただきました岡山県津山市老人クラブ連合会の皆様に感謝申し上げます。

引用文献

- 文化出版局編 (1998)『ハイミセスの服』文化出版局, 東京, 54-55
- 小杉早苗 (1997)『ミセスのふだん着』文化出版局, 東京, 36-37
- 小山京子, 高山真佐子 (1995) 被服構成のための身体計測 (第1報), 美作女子大学・美作女子大学短期大学部紀要 40, 45-51
- 小山京子 (1998) 衣服着装に関する高齢女性の意識, 美作女子大学・美作女子大学短期大学部紀要 43, 79-87
- 茂木泉編 (1997)『別冊おしゃれ工房』日本放送出版協会, 東京, 68-69
- 丹羽雅子 (1997)『アパレル科学』朝倉書店, 東京, 4-5
- 日本放送協会編 (1994)『おしゃれ工房』日本放送出版協会, 東京, 8, 80-83
- 日本放送協会編 (1997)『おしゃれ工房』日本放送出版協会, 東京, 4, 108-109
- 小澤洋子 (1994)『装いは生きるよろこび』中央法規出版, 東京, 124-125
- 佐藤衛子, 高橋紀子 (1995) 高齢婦人の衣服に対する意識にもとづいた試作衣服と試着調査, 日本服飾学会誌 14, 176-184
- 田中優, 秋山学, 泉加代子, 上野裕子, 西川正之, 吉川聡一 (1998) 高齢者の自律と着装行動に関する研究, 繊維製品消費科学会誌 39, 716-722
- 上野裕子 (1998) 高齢者と衣服, 繊維製品消費科学会誌 39, 689-695

(1998年12月1日 受理)